

「どん底でこそ、ユーモアが生きる力になる」

雨宮由紀枝（博士課程 2 年）

こんなに笑った授業は、初めてでした。1 文字もメモをとらなかった授業も初めて。それから、授業準備に、こんなに時間をかける先生も、初めてお目にかかりました。ネタのしこみへの熱量が、やっぱりプロは桁違い。エネルギーに笑いを取り続けた 90 分間。

「乃木坂寄席」最高でした。教員として、こんなにふうに聴衆の集中を切らさずに話を聞かせることができたらなあ…と憧れの眼差しで見つめておりました。

キーワードは、「弱さの情報公開」。世界で驀進中の Google も、「弱さを出せるチームは生産性が上がる」と 2017 年に発表したとか。今までいくつかの職場を経験しましたが、確かに、失敗を隠すことなく伝えられる仲間がいて、精神的に安定し、互いにカバーし合う土壌が生まれました。逆の風土の職場では、がんばろうという気持ちが萎えて苦しかったことを思い出します。「弱さを絆に」は、ベテランの家では 40 年以上も前から実証済み。その先見性に、改めて

気付かせてくださいました。

向谷地さんの言葉も印象的でした。「ユーモアには、苦しい現実から少し距離を置く力がある。悲しみや苦勞に打ちひしがれないために人に備えられた力であり、究極の生きる勇氣である。」医療も福祉も教育も歯が立たず、どうにもこうにもドン詰まり。そんなとき、クスッと笑える柔らかな風が流れてきたら。できれば、こらあげんさんのように、お腹を抱えて、涙を流すくらい大笑いさせてくれる人が登場したら。お話を伺っていて、どん底でこそ、ユーモアが生きる力を蘇らせることを実感しました。

この度は、めったに出会えない、めっちゃめっちゃ楽しく有意義な講義をありがとうございました。すっかりファンになりました。また、お目にかかれる日を楽しみにしています。乃木坂にも、ぜひいらしてください！